

下に出すべきではないのではあるまいか等の問題に就て注意して貰ひたい、二には作家の技巧に就いて考へると又其繪の上から現代の繪がいかに發達し來り、いかなる程度にあるか又いかに變遷しやうとしてゐるかを見て貰ひたい、三には盛に現はれる批評研究が果して研究賞鑒の道を盡くして居るかどうか、これ等は我々の學術的又教育的に注意すべき點であると考へるこれは色彩のみの點から見たのであるが他の點からも種々、展覽會から學ふべきところがあるかと考へる云々

■一二の欠點は止むを得ない、二百人が一樣に期待した菅原先生の御講演のなかつた遺憾はあつたが、大体に於て豫期通りの結果を告げて會は終つた、會員は去つた、残された椅子とテーブルと花瓶と植木鉢とに、尙談話會の氣分が纏つて、外は秋の晴れ渡つた太陽が降りそそいでゐる、「いゝ文科會日和だつた」と誰かの云ふのが聞える、秋はいよいよ深くなり文科會の前途は遼遠である、切に會員諸姉の御自愛を祈る。

(T. N.)

蓮嶽晴雪

鹽谷宕陰

朝暾之前。暮霞之際。望岳於駿岡之西。突兀萬仞。芙蓉帶天。何處無是觀。唯瞻蒼蒼溪翠樾之表最佳。南至日。峰尖吞落日。殊爲絕奇。更思以朔旦冬至之歲審驗之。  
(若巒廿勝小記)

回想錄

回顧 千葉安良

會長中川校長閣下 部長下田次郎先生、下村三四吉先生、岡田みつ子先生、垣内松三先生の周密な御指導御監督のもとに、文科住任關根正直先生を初め他諸先生方の直接間接の御薫陶御示教にあづかり、多數幹事諸氏の勵精會務を處理せられましたこと、全賛助員全會員諸姉の御援助御同情を蒙りましたことによりつて、茲に本會誌も第十號を發刊いたしましたこととなりましたのは、誠にめでたく有り難く存じます謹んで祝意を表しますとともに、上記のお方々並びに初號から六號に至る會計方兼編輯發行名義人であられた伊澤光雄氏、八號から引きつゞき現在の會計をあづかる、竹田みち氏に對して、深厚なる謝意を表するのであります。

四年になつたらあれもかうしよう。これもかうしよう、私共の一年二年三年の頃には、研學上修徳上の諸便宜に關することを始め、寄宿舎生活の諸難

事に至るまで、いろ／＼の改良意見を抱いて居つたものでした。そのもくろみの一つが、此の文科會誌をも産み出したのです。創刊當時の幹事は、その頃文科四年生であつた今小樽に居る河崎と、水戸に居る目良(舊姓關)とで、時の部長下田次郎先生と、櫻蔭會の主事を御務めになつて入らした岡田みつ子先生との一方ならぬ御盡力を受けて、すゝめん心も苦しめ骨も折つて、會誌刊行の基礎を確實に造つて呉れたのでした。此の意味に於いて、私は重ねて、兩先生と此の二氏とに感謝の意を表するのであります。

初號發刊に際しての、中川會長からの御訓言は、「一時にして廢らぬやうに」「切り貼的にならぬやうに」「あまり専門的のものばかりに徧らず、一般的材料を研究するやうに」との三事に關してでありました。又下田部長からは、「此の會誌の客觀的價値は、學校の文科の實際があらまゝに投寫されるどころ學校の一部の側面史をなすところにあるが、主觀的價値は或意味に於いて 絶對無限に豊富である」といふことと、「在學生の活動とともに、卒業生の援助